

学校教育目標		高い志をもち 夢の実現に向けてたくましく生きる児童の育成	
経営理念	使命・存在意義	学校に関わる人が幸せになるための仕組み	
	中心価値・行動規範	Act Boldly ■大胆に行動する Build Equal Trust ■信頼し、信頼される Create the First ■はじめてをつくる Do a Professional Work ■プロフェッショナルであれ Express as a Team ■チームとして取り組む	
現状と今年度の重点		<p>本校はこれまで、「広島県学力向上推進地域事業」「広島県小学校生徒指導実践指定校支援事業」の指定を受け、学習指導と生徒指導を両輪として実践的な研究を進めてきた。学習指導では、学習活動モデルのTKFモデル「T・創る」「K・語る」「F・振り返る」を児童主体の学びを促すモデルとして、国語科への学習へ援用し、その有用性を確認している。また、生徒指導では、課題を有する児童へ関係機関と連携した対応や、言葉掛けや認め方等を工夫して中間的集団を育てた結果、欠席児童は減少し、暴力行為・いじめ・不登校は減少している。しかし、学習指導では、算数科の基礎・活用に課題があり、生徒指導では、児童の自尊意識が十分に高まっていない状況がある。さらに、教職員、児童、保護者とコミュニケーションの意識、組織として現状を分析し行動する課題解決の姿勢、職場の心理的安全性を高める働き方など、継続的に実践を進める必要がある。</p> <p>令和2年度の取組を検証し、本年度は、次の5点を重点事業として研究を進める。</p> <p>(重1)学力向上充実事業 児童の思考の流れを繋ぐ、TKFモデルの活用と充実 (重2)家庭学習充実事業 量から質への転換と、児童の学び方の支援 (重3)体力づくり充実事業 基礎的な体力の向上と、縄跳び等の達成型スポーツの導入 (重4)生徒指導充実事業 いじめ・不登校等への対応と、公共の精神を高める自律への指導 (重5)働く人支援充実事業 心理的安全性の高い職場づくりと、自他を大切に作る働き方</p>	

評価計画				自己評価						取組指標(目標を達成するための手立て)	評価結果の分析・達成状況	来年度へ向けての改善方針				
中期経営目標	短期経営目標	担当	達成目標	成果指標(効果を見取る目安)	目標値	8月		1月								
						達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価					
確かな学力	学力向上充実事業・家庭学習充実事業	指導の個別化により基礎的な知識・技能を習得させるとともに、課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	基礎的な技能を身に付け、文章の内容を読み取ることができる児童を育成する。	国語科「読むこと」領域のテストの達成率80%以上の児童を85%にする。	80%	66%	83%	B	78%	98%	B	◎課題解決に向けて既習との繋がりや付けたい力を意識した授業改善に取り組む。(ブロックによる研究授業を学期に1回以上) ◎アウトプットを意識した学習を展開し、成果をフィードバックする取組を継続的に進める。(まとめ・振り返りを単元ごとにする)(教職員の意識向上を図るアンケートを月に1回実施)	・国語科「読むこと」領域のテストの達成率80%以上の児童は全体では78%だった。1年生81%、2年97%、3年74%、4年66%、5年75%、6年84%だった。 ・ブロックによる授業研究を2・3学期合わせて、4回実施した。 ・教職員の意識向上を図るアンケート「単元のふりかえりを書かせる時間をとっている」の項目の評定値は3.17だった。	・2学期末の初読の評価テストでは、77%以上の児童は80点以上である。前期と比較すると、約10%の向上が見られた。特に、第4学年30%、第5学年19%の向上が見られ、学校全体で取り組んでいることを継続して行った結果だと思われる。しかし、1学期と2学期で評価テストの内容が説明文と物語文と異なったため、児童の取り組み易さに違いがあったのかもしれない。来年度の成果指標を複数対象にして、検証していく必要がある。 ・今後も朝ドリの時間を活用し、読み取り方の指導や初読の文章に慣れていく指導を継続して行うと共に、来年度は、TKFの可能性を他教科でも探っていき、さらに基礎学力の定着と活用を図る。	
			研究	個に応じた学習課題に取り組む機会を提供し、主体的な学びを促す授業づくりの研究を進める。	「授業では、友達と話し合うなどして自分の考えを深めたり広げたりしている」という児童を80%にする。	80%	87%	108%	A	91%	114%	A	◎思考を深めるための話し合いのコツを使った授業に取り組む。 ◎児童相互の話し合いを深めるためにペア・グループ学習の場を1日1回は設定する。	・1学期に「話し合いのコツ」の研修を行い、授業に生かしていく。その後も2学期にさらに思考が深められるようバージョンアップを図り、3学期まで継続して取り組めるようにする。 ・指導者が、まずは自分の考えを持つことも大切にしながら、常に児童同士が互いに高め合えるように意識して行くことができるようにしていく。 ・「全くそう思わない」と答えている児童が、全体で2.4%いる。その児童を把握するとともに、ペア・グループでの活動を継続して取り入れることで、話し合いに参加できるようにしていく。 ・ペア・グループ学習を効果的に活用できるような研修を行う。 ・ブロックごとの教材研究を進め、どのような力をつけるのか、そのために何を教えるのかを明確にし、めあてと振り返りにもつなげられるようにする。また、時にはブロックを外しての研修も行う。		
			研究	ICTの活用等を通して、学ぶ意欲を向上する環境づくりを行う。	家庭との連携により、家庭学習の充実を図り、児童の学ぶ意欲が向上している。	保護者アンケートによる「児童が自主学習に進んで取り組んでいる」と考える保護者の肯定的評価を80%以上とする。	80%	62%	78%	C	74%	93%	B	・「児童が自主学習に進んで取り組んでいる」と考える保護者の肯定的評価は、全体で74%(12%↑)であり、1年生86%(16%↑)、2年生82%(27%↑)、3年生67%(10%↑)、4年生54%(1%↑)、5年生72%(23%↑)、6年生82%(5%↑)であった。 ※()内は前回の比較 ・全学年で前回からの肯定的評価の割合の増加が見られる。半数の学年が目標値に達したが、もう半数は目標に届かなかった。自主学習の職員研修を行い、各学級担任が工夫したことに加え、保護者が授業や行事を参観する機会が増えたことによる。学校・学級の取組への理解の深まりが主な要因ではないかと考える。	・自主学習の内容を考え、自分で意味のある学習を行うためには、指導方法や評価の在り方を工夫する必要がある。そしてそのためには、教員自身が何のために自主学習を行うのか、それを通してどんな子どもを育てようとしているのかについて話し合い、納得して取り組むことが重要である。宿題や授業づくりそのものについて、自らの教育観を問い直し、そこから実践を見つめ直すような研修を行っている。 ・今年度は自学会を中心に、自主学習の取組についてタブレット上で交流できるようなページを作成した。来年度は、学年の子どもたちが全員自分の提出した自学をタブレットで閲覧できるページを作成し、お互いの学習内容から刺激を受けたり、肯定的に評価し合ったりする場を作る。	
豊かな心	生徒指導充実事業	公共の精神や社会規範の尊重と積極的な生徒指導の推進により、児童の自己効力感を高め、児童が相互に敬意をもち認め合える人間関係を育成する。	生活	「時間を守る」ことを通して、自ら考え、見通しをもって行動しようとする態度を育成する。	「時間を守って行動できた」児童の割合を90%以上にする。	90%	94%	104%	A	95%	105%	A	・「時間を守って行動できた」児童の割合を95%だった。各学級とも意識が高く、期間中100%を達成している学級もあった。廊下を見て回っても、授業が始まる時には、廊下にいる児童はほとんどおらず、時間通りに授業が始まっている。時間を守った行動ができていたため、授業の始まりの際にも、児童たちが落ち着いて授業に取り組んでいる。	・低・中・高と時間をずらして日程が組まれているものの、児童はそれに合わせて行動で来ている。また、各担任が児童への呼びかけをしっかり行ったことで、授業の始まりに落ち着いた雰囲気を作り出すことが出来ている。5分休憩は児童の戻りが良いが、大休憩や昼休憩に、戻りが遅い児童がいる。これらの児童への継続的な呼びかけが必要。		
			生活	計画的な学級活動を通して、居場所づくりを行い、積極的な生徒指導を進める。	自学会目標を達成するため、手立てを考え、意欲的に取り組もうとする態度を育てる。	毎月の自学会目標が達成できた児童の割合を85%以上にする。	85%	70%	82%	B	89%	105%	A	◎月目標の達成度を確認するために、帰りの会で毎日児童が自己評価し、毎月最終週に集計と結果の分析を行う。 ◎児童が相互に尊重し、認め合える行動を、学年・学級で肯定的に評価し、継続的に人間関係を育成する。 ◎自学会朝会で達成率の高いクラスを表彰する。 ◎自学会目標に取り組んでいる児童の写真を掲示し、意欲の向上を図る。	・毎月自学会目標が達成できた児童の割合を89%だった。自学会担当の先生が、自学会の取組前・取組後も丁寧な指導を行うことで、自学会の児童の意識を高めることが出来た。そこから全校への取組も向上したと考えられる。自学会朝会も全校で集まれない中、放送のみとなるが、事前に関係の先生に放送内容の確認に行ったり、聞き取りやすい放送を行ったりと、丁寧な仕事を実施。落ち着いた雰囲気での放送から、全校児童も落ち着いて聞ける雰囲気を作り出す一助となった。	
健やかな体	体力づくり充実事業	組織的で継続的な健康教育の推進により、健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	健康	達成型スポーツの実施を通して、個の運動量を確保し、運動に親しみ、体力・運動能力の向上を図る。	積極的に体を動かすことを楽しむ児童を育成する。	運動やスポーツ(体を動かすこと)が好きな児童の割合を80%以上にする。	80%	82%	102%	A	85%	106%	A	◎児童が楽しく体を動かす機会や場を設定し、意欲を高めるような取組を実施する。(体育の授業、休憩時間の遊びの推奨、家庭での体力づくりの奨励) ◎なわとびカードを全校に配布し、個別の目標をもたせ、達成する喜びを感じさせるとともに個の運動量を確保する。	1月に児童へのアンケートを実施したところ、体を動かすことが好きだと答えた児童の割合が、1学年85%、2学年92%、3学年98%、4学年82%、5学年76%、6学年52%となっており、1～5年生まで多くの児童が肯定的な回答となっていた。6年生は、アンケート実施時に全児童の回答となっていないことも一因としてあると考えられる。低・中学生は、本年度後期から取り組んできた縄跳びカードの参加率も良く、達成する喜びを感じる中で運動に親しむことができていたと考えられる。	・縄跳びカードの内容を児童の実態に合わせたものに改良し、年度初めから取り組めるように準備をする。また、児童の委員会活動と連携して、評価の場を設ける。 ・各学年での休憩時間の遊びの推奨が行われるように職員内でも推進する。 ・タブレットを利用し、縄跳びの跳び方の見本を児童が共有できるように縄跳びの手本となる動画を作成する。
			教頭	機動的で信頼と感動のある情報発信を進める。	保護者にとって具体的に分かりやすい情報を適時適切に発信する。	保護者アンケート「学校は、教育活動をよく知ってもらうための取組を行っている。」と考える保護者の肯定的評価を80%以上とする。	80%	85%	106%	A	94%	118%	A	◎緊急性の高い情報は適時発信する。 ◎学校の取組や児童の様子が伝わる、保護者に分かりやすい情報を定期的に発信する。 ・学校通信(学校便り・給食便り・保健便り・学年便り)を月に1回以上、学級通信を月に2回以上発信する。 ・ホームページを週に1回以上更新する。	HPの更新等取組を進め、学校評価では、保護者の肯定的評価が94%となった。学校便りは月1回以上発行し、保護者のみならず、地域にも情報を発信できた。一方で、学級便り等も発信してほしい、新たな生活様式に応じた新たな発信方法を模索してほしいという意見もあがっている。	・マメールや学校だより、HP等活用して、適宜発信できるようにする。また、学級・学年便りの充実を図るとともに、その他のツールを活用しての発信方法を、情報教育担当者と模索し、より連携を密にしていく。 ・学校通信(学校便り・給食便り・保健便り・学年便り)を月に1回以上、学級通信を月に2回以上発信する。 ・ホームページを月に1回以上更新する。 ・Googleclassroom等を活用して、学級ごとの写真や動画等の公開も行っていく。
信頼される学校	働く人支援充実事業	学校・家庭・地域との連携を深め、人が輝きながら動く学校づくりを進める。	教頭	教職員の自分と同僚を大切に、個の成長と組織の成熟を促す働き方を進める。	組織の生産性を高め、教職員が主体的に考え、交感しながら行動できる。	教職員が生産的な仕事ができていると感じ、自己受容し豊かに働いていると考える教職員を90%以上にする。	90%	85%	94%	B	87%	97%	B	◎学校行事や日課等を見直し、カリキュラムマネジメントを進める。 ◎教職員の在校時間を分析し、働き方を組織的に支援する。 ◎「頼る磨き」「対話を紡ぎ」「組織を繋ぐ」「働き方を宿す」研修を行い、フィードバックを実施し、人材育成を図る。	業務の割り振りの再構築や各自に応じた指導・支援を継続し、働きやすい環境の構築を図る取組を行った。結果、仕事にやりがいを感じている職員が83.3%、事故の成長を感じている職員が、86.7%となった。また、上司との関係や支援を感じている職員が100%となった。しかし、仕事のストレスや疲労を感じている職員が56.7%もいる状況から、今後も引き続き働き方改革を推進していかなくてはならない。	・分掌内の事務的業務の再編と、事業化による個人の裁量の拡大を推進する。 ・時程の見直しを図り、カリキュラムマネジメントを推進する。 ・保護者のボランティアを募り、十小パートナーシップ制度の導入。